



浄水場等設備技術実務研修会（大阪会場第4回：9月10日～13日）

浄水場・給水所等の運転管理に携わる技術系職員の方々8名の参加を得て、大阪市水道局体験型研修センターの訓練用設備を利用して、実際にポンプ実流試験装置を使った実習等、機器類の運転・操作を体験するとともに、設備機器の保守・管理の実務について研修を実施した。

配管設計講習会（東北会場：9月11日～13日）

水道事業体及び民間企業等において配管設計の経験が少ない水道技術者49名の参加を得て、「水道の課題と設計業務」、「配管設計・積算の基礎知識」、「製図の基本」、「管路（GX形）の製図演習」、「積算の基本」、「管路（GX形）の積算演習」について研修を実施した。

第40回広報専門委員会（9月12日）

はじめに、審議事項「人材確保に向けた水道界の魅力向上に繋がる広報手法の検討について」を事務局より上程し、検討の方向性や「人材確保・育成等に関するアンケート」の結果の分析から考えられる課題への対応について、委員による意見交換を行った。



その結果、学生向けと首長部局向けの二種類の説明資料を委員会として作成することとし、事務局にて必要な作業を進めるとともに、

委員からヒアリングを行うべきとされた取組事例については、事務局にてヒアリングを行い、次回委員会で結果を報告することが了承された。

次に、委員から提案された情報交換事項である「①広報紙の発行・制作方法について」、「②高校生や専門学校生、大学生等と連携した広報手法について」、「③水道料金値上げに対する容認度を高めるための広報手法・技術について」、「④広報動画の作成について」、「⑤広報・報道対応の業務執行体制について」、「⑥水道水のボトル製造・販売について」、「⑦生成 AI の活用について」に対して、それぞれ活発な意見・情報交換が行われた。

最後に、事務局より、令和6年度（第66回）水道週間の活動、「下水道展'24東京」への出展、令和6年度全国会議・2024神戸水道展への水道PRブースの出展、令和6年度情報発信スキルアップセミナーの実施について報告が行われた。

第198回水道 GLP 認定委員会（9月17日）

水道 GLP 認定について審議した結果、株式会社東海テクノ（JWWA-GLP082）、一般財団法人上越環境科学センター（JWWA-GLP083）、一般財団法人沖縄県環境科学センター（JWWA-GLP084）の認定更新を決定した。

また、新潟市水道局（JWWA-GLP007）の認定維持を決定した。

水道技術管理者資格取得講習会（川口研修所：9月18日～10月9日）

水道法施行規則第14条第3号による登録機関として、85名の参加を得て、「水道行政」、「公衆衛生・衛生管理」、「水道経営」、「水道基礎工学概論」、「水質管理」、「水道施設管理」について15日間の学科講習を実施した。

なお、学科講習修了者は、この後に「水道施設の技術的基準を定める省令第5条」に適合するろ過設備を有する水道施設において、15日間の実務講習を受講する。

第111回経営調査専門委員会（9月20日）

はじめに、「水道料金制度に関する調査結果（速報版）について」、事務局から報告を行った。

次に、「水道料金制度に関する検討事項について」、事務局から第110回経営調査専門委員会の議事要旨、及び水道料金制度に関する検討のポイントを説明した。

続いて、「各重点項目における意見交換及び論点整理について」を審議し、水道料金制度に関する検討すべき重点事項（①資産維持費、②総括原価の配賦方法、③逓増料金制の設定基準、④加入金・負担金）について、出席委員に加え、石井晴夫東洋大学名誉教授、浦上拓也近畿大学経営学部教授の特別委員、オブザーバー（国土交通省）を交え、具体的な意見交換及び論点整理を行った。

また、「今後の審議の進め方について」、事務局より説明を行い、今後のスケジュール案について了承された。



第47回水道施設に関する規格専門委員会（9月20日）

水道用ソフトシール仕切弁（JWWA B 120）について、GX形呼び径350の追加及びJIS G 5502（球状黒鉛鋳鉄品）改正への対応等のため、第1回目の委員会を開催し、規格改正についての審議を行った。

なお、令和6年12月に第2回目の審議を行う予定である。

第1028回会誌編集委員会（9月24日）

本誌10月号の編集方針、投稿原稿の査読状況等について審議を行った。



第140回人材マネジメント専門委員会（9月26日）

はじめに、審議事項として「人材確保・育成等に関する調査審議について」を上程した。

まず、事務局よりアンケートの集計結果の速報版について説明した。次に、アンケート結果において、効果的と思われる取組事例等について意見交換を行った。そして、今後の検討の方向性について、各委員の意見から考えられる検討項目案と事務局の提示した検討



項目案について、検討項目とする妥当性と検討方法について意見交換を行った。次に、事務常設調査委員会へ本日の審議を経て決定した検討の方向性について、中間報告を行うことを決定した。

最後に、事務局より、①水道賠償責任保険のサービス拡充について、②情報発信スキルアップセミナーの実施について、それぞれ報告した。

第785回抄録委員会（10月2日）

本誌1月号に掲載する外国文献の抄録内容等について審議を行った。



第4回理事会（10月8日）

青木理事長が議長となり、議案の審議に入った。

はじめに、報告事項として「公益社団法人日本水道協会の会務について」を報告した。

続いて議案の審議に入り、第1号議案「公益社団法人日本水道協会第105回総会の運営について」、第2号議案「地震等緊急時対応の手引き改訂特別調査委員会の設置について」、第3号議案「会員の入会について」が上程され、審議の結果、原案のとおり決定した。



令和6年度全国会議〔第105回総会・水道研究発表会〕

（10月9日～11日 於：神戸国際展示場・神戸国際会議場）

～1日目（10月9日）～

はじめに、オープニングセレモニーとして、本協会副会長・長内豊中市長、国土交通省・松原大臣官房審議官、水道研究発表会論文審査等合同会議・滝沢委員長、日本水道工業団体連合会・北尾会長によるテープカットを行った。

続いて、開会式において、開催地を代表して藤原神戸市水道事業管理者より、日本水道協会を代表して長内副会長よりそれぞれ挨拶があった。

続いて、国土交通省上下水道審議官（松原大臣官房審議官代読）、松本環境省水・大気環境局長、総務省自治財政局長（清田大臣官房審議官代読）、北尾日本水道工業団体連合会会長より来賓祝辞があった。



神戸国際展示場



オープニングセレモニー



開会式



開催地代表挨拶：
藤原神戸市水道事業管理者



日本水道協会代表挨拶：
長内副会長（豊中市長）



国土交通省上下水道審議官祝辞：
代読 松原大臣官房審議官



環境省水・大気環境局長祝辞：
松本水・大気環境局長



総務省自治財政局長祝辞：
代読 清田大臣官房審議官



祝辞：北尾日本水道工業
団体連合会会長

続いて、表彰式において、日本水道協会会長表彰が行われ、長内副会長より、功労賞として佐々木康之氏他12名、特別賞として小林重弘氏他66名、有効賞として関田匡延氏他8名、勤続賞として小西亮氏他597名に表彰状が贈られた。

続いて、水道イノベーション賞として神戸市水道局他3団体に対して表彰状が贈られ、各団体より、事例発表が行われた。



日本水道協会会長表彰（功労賞）



日本水道協会会長表彰（特別賞）



日本水道協会会長表彰（有効賞）



日本水道協会会長表彰（勤続賞）



日本水道協会会長表彰（水道イノベーション賞）



水道イノベーション賞事例発表

休憩後、田中神戸市水道局副局長が議長となり議案の審議に入り、議案「会員提出問題について」が上程された。

はじめに、『I. 防災・減災、国土強靱化』に関して、災害対策関係として問題1「水道施設の災害対策に対する財政支援」、問題2「水道事業の災害対策の強化」、問題3「非常時における電力及び通信ネットワークの確保」、問題4「社会資本整備重点計画」、問題5「水道災害復旧事業における漏水調査及び給水装置の取扱い」、東日本大震災関係として問題6「放射性物質に係る対応の推進及び東京電力福島第一原子力発電所の事故を原因とする損害賠償」についてが上程され、討議の結果、関係当局に陳情することと決定した。

次に、『Ⅱ. 水道の基盤強化』に関して、補助関係として問題7「水道事業に対する財政支援の拡充及び要件の撤廃等」、問題8「水道施設の更新・再構築事業に対する新たな財政支援体制等の確立」、問題9「簡易水道事業統合等に対する財政支援」、問題10「省エネルギー・再生可能エネルギー設備の導入促進に向けた柔軟な制度運用」について、起債・繰出関係として問題11「起債融資条件の改善及び地方公営企業繰出制度の拡充等」、問題12「公的資金補償金免除繰上償還制度及び公営企業借換債制度の復活」についてが上程され、討議の結果、関係当局に陳情することと決定した。

次に、『Ⅲ. 安定・安全の確保』に関して、水源関係として問題13「安定水源の確保及び水源施設における堆積土砂対策等の推進」、問題14「水利権制度の柔軟な運用」、問題15「既存ダムの洪水調節機能強化に向けた基本方針への対応」、問題16「特定多目的ダム供用開始後に要する利水者負担額の軽減」、水質関係として問題17「水道水源における水質保全対策及び水質事故の発生防止の強化等」についてが上程され、討議の結果、関係当局に陳情することと決定した。

次に、『Ⅳ. その他の重要事項』に関して、問題18「電気料金等の高騰に対する支援制度の拡充」、問題19「電磁式等を含む水道メーターの検定有効期間の見直し」、問題20「地下水利用等による専用水道に係る法整備及び対応」、問題21「配水管等の耐用年数の見直し」、問題22「塗膜に含まれる低濃度ポリ塩化ビフェニル（PCB）廃棄物の処理等」、問題23「広域的な広報活動」、問題24「分水、区域外給水の解消方法の簡素化」、問題25「広域化等の促進に関する地方自治法の特例措置」、問題26「水道分野の国際協力における水道事業者の役割の明確化及び国際協力活動への財政支援」についてが上程され、討議の結果、関係当局に陳情することと決定した。



議長：田中神戸市水道局副局長



会員提出問題提案理由説明

続いて、国土交通省・筒井水道事業課長並びに総務省・内村公営企業経営室長から行政施策説明があった。

続いて、次年度全国会議開催地の決定について、全国会議の開催地は、北海道地方支部から九州地方支部までの持ち回りとなっており、次年度開催地について、中国四国地方支部か

ら広島市を推薦いただいていること等を事務局から報告し、報告のとおり満場一致で広島市に決定した。



次年度全国会議開催地の決定

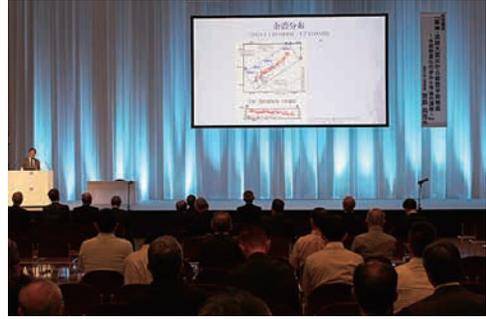
なお、同日午後から水道研究発表会が11部門に分かれて開催され、発表数は事務55、計画60、水源・取水16、浄水66、導・送・配水102、給水装置26、機械・電気・計装16、水質70、リスク管理・災害対策41、脱炭素化19、英語4、計475編の発表が行われた。



水道研究発表会の様子

～2日目（10月10日）～

特別講演「阪神・淡路大震災から能登半島地震 ～水道耐震化の歩みと今後の課題～」を、講師に金沢大学名誉教授・宮島昌克氏をお迎えして開催した。



特別講演の様子

また、水道研究発表会と並行し、10日と11日に事務局設定3コースに分かれ神戸市の水道施設等を視察した。

また、会期中、本協会と日本水道工業団体連合会が共同で設置した水道PRブース、開催地等のPRコーナー、日本水道工業団体連合会による水道展等が開催され、多数の見学者で賑わった。



水道PRブース オープニングセレモニー



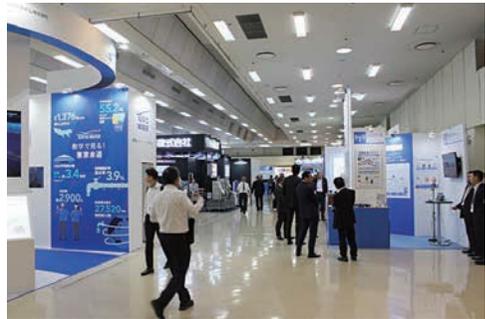
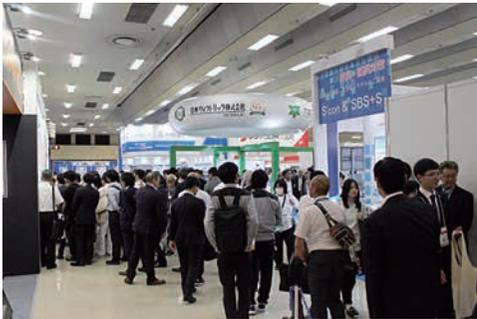
水道PRブース



水道PRブース



水道PRブース



水道展の様子



開催地PRコーナー